

令和元年度 第5回全校研究会報告

令和元年 12月23日（月） 9：30～12：00

第5回の全校研究会は、「117(いいな)研究報告会」のランチタイム実践報告で御講義いただいた、NPO 法人支援機器普及促進協会(ATDS)理事長 高松崇氏をお迎えして実施しました。

研究テーマ「地域社会との連携協働の下で想像する喜びをともにする授業～多様性は可能性～」に取り組む過程で、「多様性」を「可能性」に変える工夫の一つとしての ICT 機器活用について実際に学習し、今後の授業改善につなげることが目的です。

講義を聞いて、これまで「できない」と思っていたことをプラスにとらえる考え方や、ハイテクではないあるテク（既存のもの、当たり前にあるもの）が多様性を可能性に変えられるという発想の転換を体感することができました。

講義のタイトルは「できないことは補ってあげれば、これが共生社会」～誰もが社会貢献できる可能性～ です。講義の内容はまさにこのタイトルどおりで、

○一人一人が持っているパフォーマンスに着目すれば、「みんなに追いつく」という発想なんて必要ない。頑張らせなくても、一人一人が生かせる力を持っている。

○周囲の人は、「才能を生かす」という視点を持ち、標準的な枠に入れようとしないう。しかし得意なことをしているだけでは自己満足の域を出ない。何か「人と絡む」ような仕掛けがあれば、いろいろな人から評価され、役に立てる経験につながる。

○世の中のほとんどのものが健常者向けにデザインされているので、私たちはその便利さに依存していることを忘れてる。同じように依存先を増やすことで人に頼らなくても生きていける、それが自立である。自立とは、依存先を増やすことである。

○支援者の引き出しが増えないと、子どもたちの選択肢(依存先)は増えない。

というようなお話がとても印象的でした。

当日の資料は、NPO 法人支援機器普及促進協会(ATDS)のホームページ、「研修会・プレゼン資料」—「特別支援教育における ICT 活用 ICT 初級」—「できないことは補ってあげれば、これが共生社会—向日が丘支援学校 資料」に掲載されています。活用が許可されていますので、ぜひ御覧ください。

アンケートから

「障害があるから」＝「これしかできない」ではなく、「これができる」「こんな能力がある」と可能性を見つけ、型にはめた学びではなく、色々な視点からアプローチできるよう、自分の知識を増やしていきたい。

アプリや Siri など、自分がよく使うものをもって、指導方法や子どもにつけさせたい力の獲得についてよく知ることができました。これまで自分で感じていた価値観を、180度変えながら、広げてもらったような気持ちで、とても印象的な講演でした。自分が通ってきた道で考えるのではなく、周りをよく見て支援できるようになりたいと思いました。

